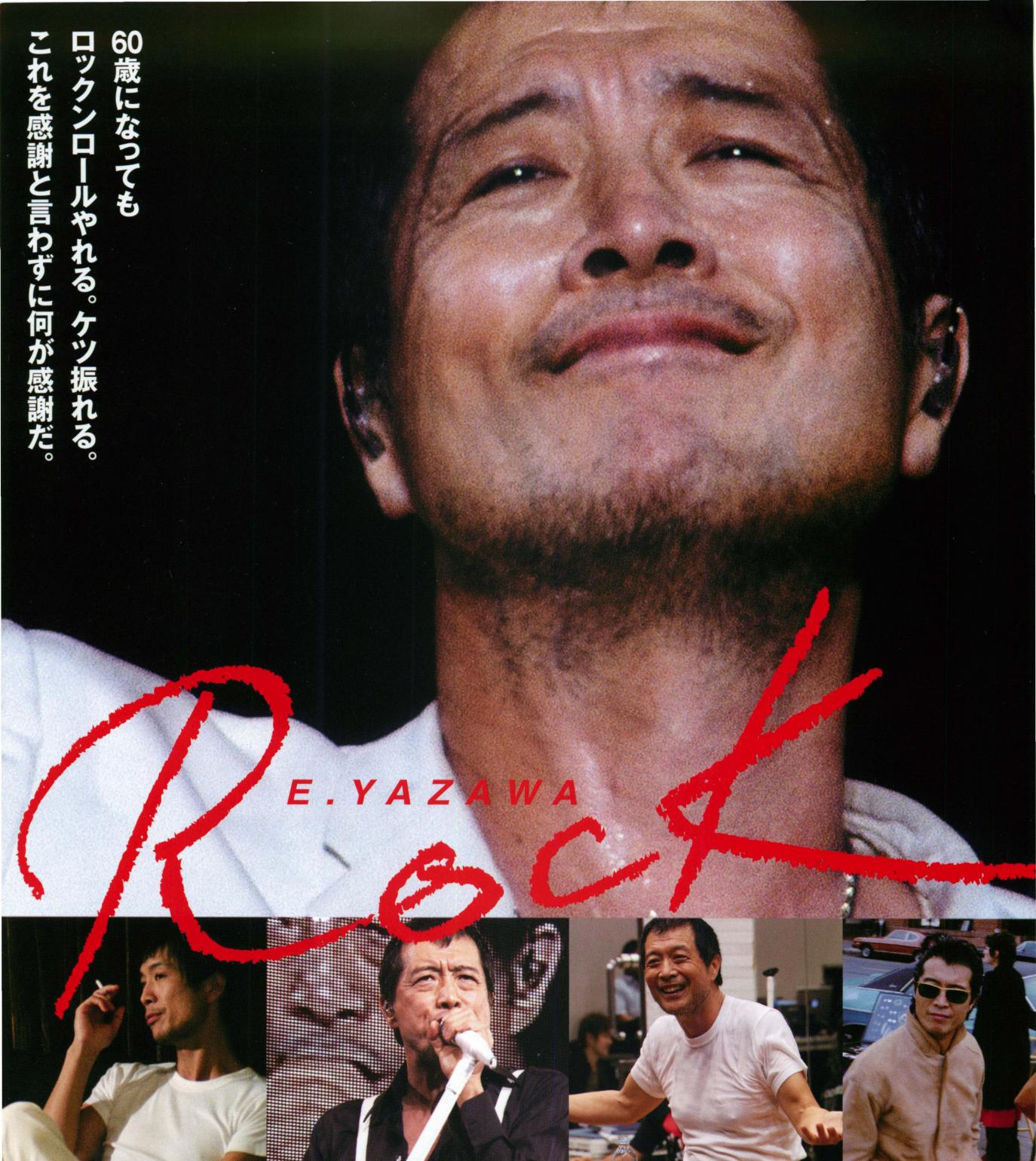


60歳になつても
ロックンロールやれる。ケツ振れる。
これを感謝と言わずに何が感謝だ。



製作・監督:増田久雄 監修:矢沢永吉 プロデューサー:村山哲也 アソシエイト・プロデューサー:黒田俊文
撮影:瀬川龍 録音:高橋義照 整音:瀬川徹夫 編集:熱海鋼一 製作:映画「ROCK」製作委員会(東映/
ブルミエ・インターナショナル トムス・エンターテインメント/東映ビデオ/ラテルナ) 製作協力:音
製作プロダクション:ブルミエ・インターナショナル 記念:東映 ©2009 映画「ROCK」製作委員会



禁録

NOT FOR SALE



G

www.rock-yazawa.com

1979→2009

日本のROCKの歴史はこの男で始まった—
矢沢永吉30年間のドキュメント!

「自分で自分の事、
天才だと思ってなきや
この商売やってらんない」

「成功サクセス手に入れて、
ポツーンと立ってるオジサン。
そんなの嫌だよね」

熱い男の生きざまにシビれろ!

日本のロックの歴史はこの男で始まった——
不世出のカリスマ、矢沢永吉が、全身でROCKと人生を語る30年間の軌跡。

貧しさが少年に決意をさせた。「これは絶対に上に行かなきゃダメなんだ」

1972年、日本の音楽シーンは、平和を歌うフォークの全盛期。そんな中、リーゼントに革ジャン、黒ずくめのファッショングで矢沢はR&Rバンド「キャロル」を率いて衝撃のデビュー。解散後、ソロ・アーティストの道を選んだ矢沢は、会場使用拒否など立ちはだかる様々な障害と戦いながら、名実ともにトップスターとなるが、更なる高みを目指し、自分の音楽を追求し続け、武道館100回公演という偉業を成し遂げる。

ライトを切り裂くようにしてステージに駆け上がる。観客の心を驚愕にし、熱狂の頂へ誘うダイナミックなステージングを収めたカメラは、一転、舞台裏へ入り込み、素顔の矢沢を追いかける。緊張感あふれるレコーディング風景。完成の一歩手前で、容赦なくダメ出ししながら、疲れを見せるスタッフを気遣い、場を盛り上げ、テンションを上げてパーフェクトな音を作り上げていく。あるいはプライベートな時間の、

家族を想い、話す、リラックスした矢沢の優しい素振りをすくい取る。

野心に満ちた目で夢を語る若き日の矢沢と、今、60歳を迎えた矢沢が先に見ているもの…。貴重な未公開映像の数々が、30年間の歳月を映し出す。素顔の矢沢にカメラを向け続けたのは、前作『矢沢永吉 RUN&RUN』(80)プロデューサーの増田久雄。国内のみならず、アメリカ、南太平洋ミクロネシアでの撮影を交えながら、オンとオフ、インとアウトの矢沢を様々な角度で映し出した本作は、二人の信頼関係なくしては完成しえない、傑作ドキュメンタリーとなつた。

「60歳になってもロックをやれる、ケツが振れる。それに感謝しないで、何が感謝だ」。

こんな台詞をサラっと言ってのけるカリスマは他にはいない。

2009年9月19日、東京ドームでハースティライブ開催。矢沢は、更に上を目指す。



11月21日 土 全国ロードショー

9月19日(土)より特別鑑賞券発売開始

TOHOシネマズららぽーと横浜

tel.045-929-1040

PC <http://www.tohotheater.jp>

携帯 <http://teit.jp>

映画盗撮は犯罪!
発見したら

www.eigakan.org
0123 550098